

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年2月22日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400315		
法人名	医療法人 一心会		
事業所名	グループホーム よりあい		
所在地	〒781-1611 高知県吾川郡仁淀川町岩丸43番地1		
自己評価作成日	平成23年1月3日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホームは、緑と清流の自然に囲まれた環境の中で、利用者がそれぞれのペースでゆったりと、いきいきと暮らせるよう本人本位の視点で支援している。30～60代の幅広い年齢層の職員は、利用者を人生の先輩として敬い、色々な関わりを持ち、笑って過ごせる時間を大切にした支援を心がけている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972400315&amp;SCD=320">http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972400315&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年1月26日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は自然豊かな山間にあり、商店や民家、母体法人の協力病院も近くにある。職員は利用者とのコミュニケーションを大切にし、常に笑顔絶やさず、寄り添いながら支援している。日頃から近所の子どもたちが遊びに訪れたり、地域ならではの神祭や催事での馴染みの人との触れ合いや、町の文化祭に利用者の絵手紙を出展するなど、地域資源を活用して利用者がその人らしく暮らせるよう支援している。行事の後には家族と懇談する場を設けたり、運営推進会議では参加委員から積極的な意見や提案があり、家族や地域住民と支え合いながら取り組んでいく関係も築かれている。また、母体法人の協力病院と医療連携体制が確立していることから、利用者、家族から安心と信頼を得ており、今後も地域に密着した事業所としての発展に期待が持てる。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名： よりあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしさを保ちながら暮らしをサポートしていくことを理念として掲げ、職員は理念に沿って、利用者や地域との関わりを大切に日々のケアに取り組んでいる。	地域密着型の事業所独自の理念を作成している。毎日の申し送り時や月に1回のカンファレンスの際に理念を振り返り、家族や地域と支え合いながら利用者一人ひとりのその人らしい暮らしの支援を実践している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の行事に参加するなど交流を深めている。また、事業所の夕涼み会や敬老会などのイベントに地域の方を招待している。	町内会の回覧で地域の情報を得たり、地域の祭りなどに参加している。事業所の行事を通じて地域住民や保育園児と交流したり、近所の子どもが気軽に事業所に遊びにくるなど、地域に溶け込んでいる。また、利用者の絵手紙を地域の文化祭に出展するなど、情報発信もしている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や児童との交流を通じて、認知症について理解してもらうよう取り組んでいる。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから報告し、参加メンバーからの質問、意見、要望を受け、双方向的な会議になるよう努めている。その内容は会議後に職員全員に周知し、改善に向けて話し合い取り組んでいる。	事業所から利用者の状況や運営について報告し、参加委員からそれぞれの立場で積極的な発言があり、双方向的な会議となっている。なお、会議は前回評価時点と同様に3カ月に1回の開催となっている。	評価結果の報告や課題への対応方針、改善状況など、適宜、議題に取り上げるとともに、外部評価が2年に1回となる免除要件を満たすよう、会議の実施回数を見直すよう期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや町の介護保険担当者との関係づくりに積極的に取り組み、各届出や事故報告、相談や情報の共有などの連絡を取り合っている。	運営推進会議や介護度の認定などの機会を通じて事業所の運営状況を理解してもらったり、利用者に関する情報の共有を図っている。また、町独自の健康体操のVTRの提供や他の事業所との交流について働きかけがあるなど、行政と連携して取り組んでいる。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人の病院における身体拘束に関する勉強会に参加したり、事業所でのミーティングを通じて職員の理解を深め、実践している。また、帰宅願望のある利用者には、声かけや見守りを通じて本人に納得してもらうこと基本に支援している。	法人の病院との合同研修等を通じて職員の理解を深め、日々の言葉による行動抑制など職員同士で注意し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間は玄関には鍵をせず、外出傾向のある利用者を把握し、不穏な状態が見受けられる場合には落ち着くまで話しかけたり、見守りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加し、研修報告書を回覧したり、意見交換をするなどして虐待防止を徹底している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町や社協の担当者と話し合い、必要に応じて制度を活用している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要説明事項について説明し、疑問点等について答え、同意を得たうえで署名、捺印をお願いしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中で、意向を把握している。家族とは、訪問時には必ず話しかけ、催し物の後で家族会を行い、出された意見は運営につなげている。	家族の面会時に個別に話し合ったり、運営推進会議の家族代表から意見をもらうなど、意思疎通を図っている。また、前回評価を受けて事業所の敬老会の後に家族と懇談する機会を設け、家族と共に支え合っていくための取り組みについて話し合っている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送りの際や、カンファレンス、仕事の合間など随時意見は聞くようにしている。出された意見については、話し合い運営に反映させている。	職員の意見や提案は、日頃の業務の中で気軽に出し合える環境に配慮している。月に1回のカンファレンスには法人職員の参加もあり、職員提案について話し合い、プランターの設置やベンチの取り換えなど、運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握するとともに、資格取得に配慮し、その努力を評価したり、効率よく就労できる環境づくりに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修はもとより、外部研修の受講を促すなど、職員の介護技術の向上に配慮している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所を訪問して意見交換したり、複数事業所と連携した合同研修会に参加するなどしながらサービスの向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを受け止め、不安なことを解消し、安心してサービスを利用してもらう環境づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望等をよく聞き、事業所の対応などについて話し合い、信頼関係を築いている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況やご家族の求めに応じたサービスの提供について検討し、必要に応じて他のサービスへつなげていくなど対応している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、地域の暮らしの慣わしやしきたり、こんにやく作りやしめ縄作りなど、生活のすべを教えてもらうことも多く、そうした場面づくりに配慮しながら、共に暮らす者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を伝えたり、運営についての相談や協力要請などをしながら共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や美容院に行ったり、知人、友人の訪問を受けるなど、これまでの関係が継続するよう支援している。	行きつけの商店での買物や美容院の利用のほか、利用者の希望に沿って思い出の場所にドライブに出かけたり、友人等に面会を続けてもらうよう依頼している。また、家族の協力も得て墓参りに行ったり、自宅の近所の方と触れ合う機会を持つなど、関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、時には職員が調整役になったり、孤立しないよう声かけや働きかけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方の面会に行くなど、関係が途切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や素振りから、本人の希望や思いを把握したり、家族とも話し合いながら本人の思いを推察している。	入居時に把握している生活歴等のアセスメント情報を基本に、日々の利用者の言動等から、その思いや希望を把握している。困難な場合は家族等からの情報や利用者の表情などから、思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴等を聞き、また、近所の方から参考になる事柄を覚えてもらうなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムやできることには違いがあり、日々の暮らし振りなど観察しながら全体像を把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の話を聞き、職員の気づきやアイデアを取り入れて介護計画を作成している。	利用者や家族の要望等も聞きながら介護計画に反映させるとともに、職員の気づきや介護記録を基に毎月モニタリングを行い、3カ月を基本に見直している。また、利用者の状況に変化があれば現状に即して見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践状況や職員の気づきを記録し、勤務前には申し送りを受け、記録を確認しながら職員間で共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの相談や要望に応じて、通院支援や外出支援など柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「だいばん」など地域ならではの催しや町の文化祭、保育園児との関わりなど、利用者にとって豊かな暮らしとなるよう、地域資源を活用しながら支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に法人の病院の医師を主治医とし、定期的に往診を受けている。専門医に受診する場合も主治医と連携して支援している。	利用者、家族の判断で入居時に協力病院をかかりつけ医としている。専門医への受診は家族対応を基本としており、状況に応じて職員が対応している。受診結果は病院や家族から連絡を受け、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師が週1回勤務しており、健康管理に当たるとともに、24時間体制で支援できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞いに行くとともに、入院先の医師や相談員等とも話し合い、症状の把握や退院時の対応など、情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応指針に沿って意向を確認している。また、本人や家族の意向等を踏まえ、医師、職員が連携を取りその方に最良と思われる終末期が迎えられるよう支援している。	利用者、家族に看取りに関する指針について説明し、同意を得ている。これまで看取りの対応事例はないが、家族等の意向に沿って協力病院と連携し、安心して納得した最期が迎えられるよう支援する体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した場合は、すぐに対応できるよう協力病院との連絡を密にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により訓練を実施しており、職員間でも避難誘導などシミュレーションを行っている。	定期的に事業所の防火訓練を実施し、消防署の指導のもと、消火器の点検や使用訓練、避難路の確認などを実施している。近隣住民に協力を呼びかけているが、仕事の都合もあり参加は得られていない。前回の評価結果を受けて非常用の食料等は準備している。	災害時には地域住民の協力が欠かせないので、引き続き事業所から訓練への参加を呼びかけるとともに、運営推進会議のメンバーとも協力関係を築くなど、防災対策に取り組むことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、日頃のケアの中で誇りを傷つけないように心がけ、職員同士で気づいたことはその都度話し合っている。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、排泄の声かけなどは声の大きさに配慮したり、言葉遣いなども失礼にならない範囲で地域の言葉で話しかけるなど、誇りやプライバシーを損なわない対応に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を自分で表したり、選択肢の中から自分で決めるなど、声かけや場面づくりに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、それに捉われず利用者一人ひとりのペースや思いを尊重しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や入浴後の着替えは本人の好みで選んでもらっている。希望があればお化粧の手伝いをしたり、美容師免許のある職員が髪をカットするなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の水洗い、皮むき、調理、下膳、台拭き、食器洗い等できる場面で参加してもらい、職員も一緒に食事をしている。偏食のある方には差し替えの副菜を調理している。	調理の下ごしらえや食事の準備から片付けなど、利用者の能力に応じて職員と一緒にしている。職員も利用者と同じ食卓を囲み、利用者から味付けの感想など聞きながら、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、栄養士の指示をもらい、その方に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や意向を踏まえ個別に見守り、必要に応じて介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の時間や習慣を把握し、その方に合った支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄するよう声かけするなど支援している。また、昼間や夜間の時間帯に応じて布パンツや紙パンツを使い分けたり、個々の状況に応じてポータブルトイレを利用するなど支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れたり、散歩や屋内での歩行を促すなど、便秘予防に向けた支援をしている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴の意向や時間帯の希望を聞きながら入浴してもらうよう支援している。	利用者の希望に沿っていつでも入浴できるようにしている。午前中の入浴希望が多く、個々に応じて夜間のシャワー浴などもしている。入浴を拒む利用者には、声かけの方法やタイミングなど工夫しながら支援しており、概ね2日に1回は入浴できている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整え、夜間に安眠できるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬剤情報は常に新しいものを個人ファイルに綴じ、職員間で共有している。また、薬の処方や内容が変わる度に看護師との連絡や職員間の申し送りを徹底している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野で力を発揮してもらうよう、利用者ができることや、好みに応じた場面づくりに努め、月2回の絵手紙教室の作品を町の文化祭に出展するなど、利用者の楽しみとなるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの楽しみや習慣に合わせて外出し、特定の場所に外出希望の際はあらかじめ計画を立て、利用者の希望に沿った支援をしている。	利用者の体調や気候などにも配慮しながら、日常的に周辺の散歩や近隣の商店に買物に出かけている。また、季節に応じた花見や行楽なども計画し、車椅子の利用者も一緒に外出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら利用者が金銭を管理したり、事業所で預かり、買物の際は本人に支払ってもらい、お釣りを確認するなど見守りながら支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけてもらったり、手紙の代筆など支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾を行い、テレビや会話音にも気をつけ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	食堂兼居間は、利用者の動線に配慮してテーブルや椅子、ソファを置き、利用者が気兼ねなく過ごせるよう工夫している。また、季節に応じて松竹梅の紙細工や利用者の絵手紙の作品、行事の写真などがさりげなく貼られ、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間のテーブルや椅子、ソファのほか、廊下にも椅子を置いたり、屋外にもテーブル、椅子を置くなど、利用者が思い思いに過ごせる場所を確保している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、馴染みの物を持ってきてもらうよう家族に相談し、個別性のある居室となるよう配慮している。	居室は洋室と和室があり、利用者にとって馴染みのある家具や椅子のほか、テレビや人形を置いたり、家族写真や歌手のポスターを貼るなど、利用者が居心地よく過ごせる居室となるよう工夫している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活ができるよう、その方に応じた環境整備に努めている。		

ユニット名:

よりあい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				